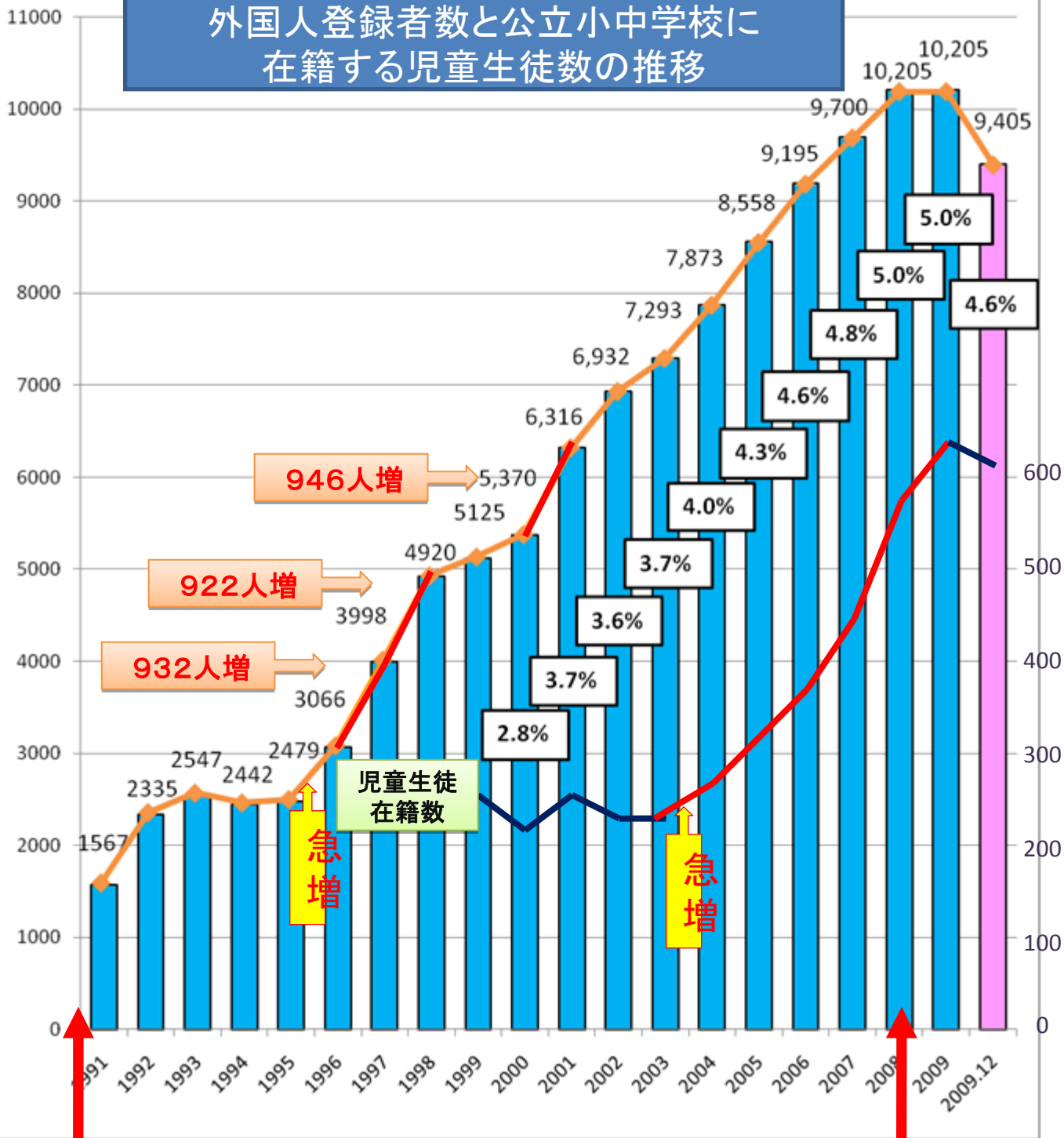


鈴鹿市における 外国人登録者数と公立小中学校に 在籍する児童生徒数の推移



946人増

922人増

932人増

児童生徒
在籍数

急増

急増

1990年
入管法改
正

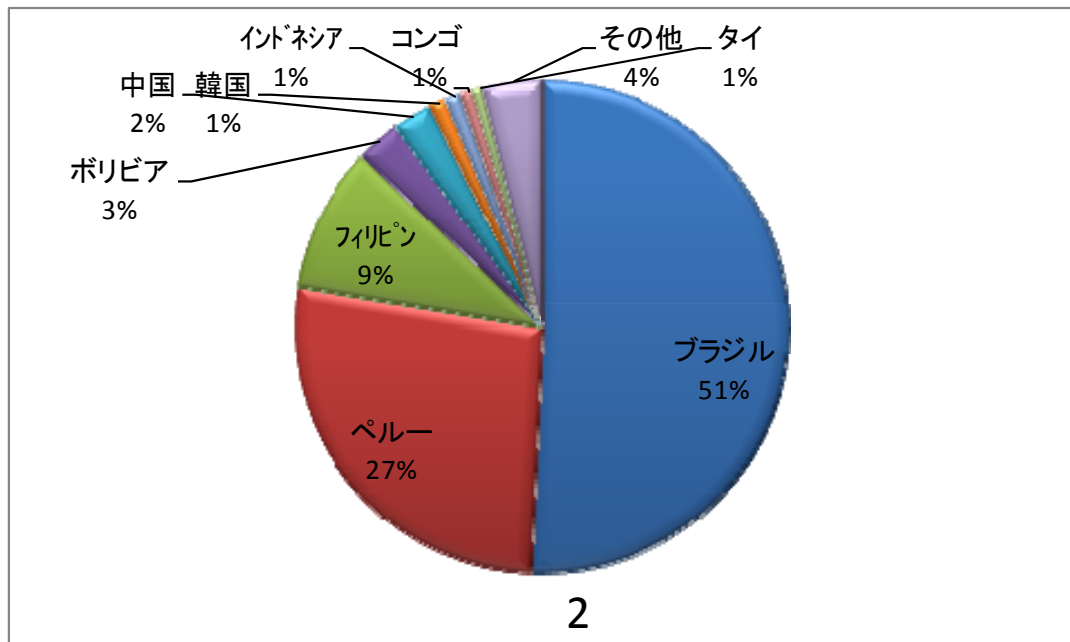
2008年9月
リーマンショック

鈴鹿市における外国人児童生徒の国籍

国籍	2009年12月1日現在		2008年	2007年	2006年
	人数	割合	5月1日現在	5月1日現在	5月1日現在
ブラジル	308	50.7%	285	229	193
ペルー	163	26.9%	164	130	108
フィリピン	58	9.6%	49	23	17
ボリビア	18	3.0%	28	21	17
中国	15	2.5%	11	11	7
韓国	7	1.2%	4	1	2
インドネシア	6	1.0%	5	3	2
コンゴ	5	0.8%	4	6	6
タイ	4	0.7%	2	3	2
その他	23	3.8%	21	25	24
計	607	100.0%	573	452	378

合計15か国

外国人児童生徒の国籍



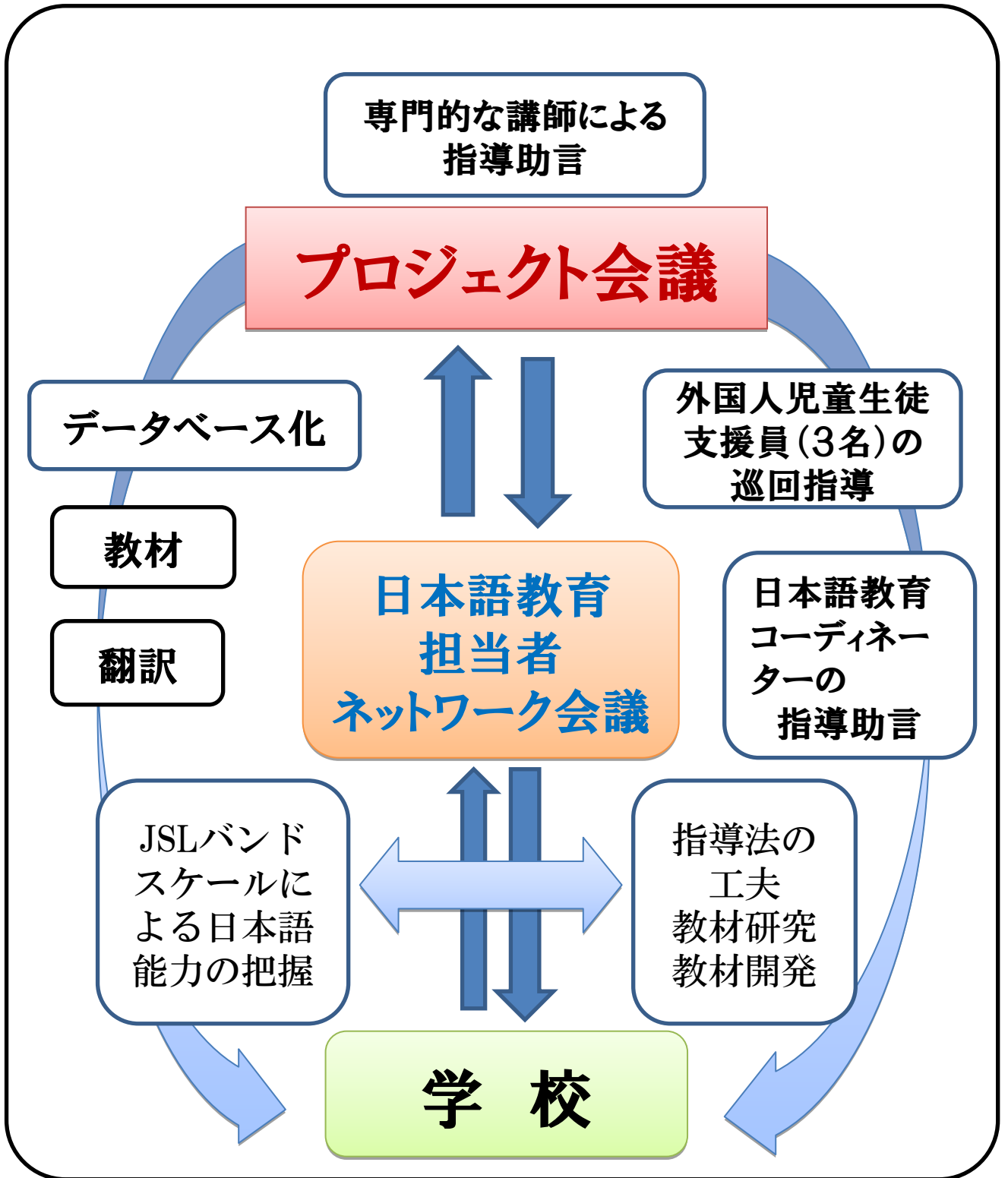
鈴鹿市における公立小中学校に在籍する児童生徒数, 要日本語指導数, 及び在籍率(H21.12.1現在)

NO	小学校	外国人 児童生徒 数	内 要日本語 指導数	全校数	在籍率
1	牧田	65	53	454	14.3%
2	清和	41	30	333	12.3%
3	玉垣	79	50	788	10.0%
4	桜島	72	52	782	9.2%
5	河曲	42	25	558	7.5%
6	神戸	45	26	775	5.8%
7	一ノ宮	35	12	661	5.3%
8	明生	18	13	350	5.1%
9	飯野	19	10	631	3.0%
10	庄野	10	6	335	3.0%
11	国府	7	3	414	1.7%
12	井田川	2	2	131	1.5%
13	白子	7	2	559	1.3%
14	長太	5	4	490	1.0%
15	石薬師	4	2	415	1.0%
16	旭が丘	10	8	959	1.0%
17	愛宕	5	3	582	0.9%
18	鈴西	2	1	235	0.9%
19	鼓ヶ浦	2	0	237	0.8%
20	加佐登	4	0	521	0.8%
21	栄	2	0	263	0.8%
22	稲生	2	1	636	0.3%
計		478	303	11109	4.3%

NO	中学校	外国人 児童生徒 数	内 要日本語 指導数	全校数	在籍率
1	創徳	38	20	597	6.4%
2	神戸	39	28	836	4.7%
3	白子	27	13	967	2.8%
4	平田野	11	8	464	2.4%
5	千代崎	10	7	569	1.8%
6	鼓ヶ浦	3	1	469	0.6%
7	天栄	1	0	447	0.2%
計		129	77	4349	3.0%

在籍校	小学校	22校/30校	73%
	中学校	7校/10校	70%
	全体	29校/40校	72.5%

外国人児童生徒数	607 人
在籍校の全児童生徒総数	15,458 人
市内全児童生徒数	18,594 人
市内在籍率	3.3 %



日本語教育支援システム構築プロジェクト会議の実績・内容

1 昨年（平成 20 年）度の経過

第 1 回 5 月 2 6 日（金）

○プロジェクト会議の発足と方針提案

方針

- ①すべての外国人児童生徒について、JSL バンドスケールによる日本語能力把握を行う。
- ②小集団指導を積極的に導入し、効果的・効率的な指導を行う。
- ③日本語教育ネットワーク会議による教材開発を実施し、教材集を作成する。

第 2 回 1 2 月 1 5 日（月）

○進捗状況報告

- ①7月に実施した、JSL バンドスケールによる日本語能力把握結果と分析。
- ②日本語能力に応じた小集団指導形態形成の進捗状況。
- ③JSL バンドスケールに基づく能力に応じた教材作成状況。

第 3 回 3 月 1 6 日（月）

○システム構築に向けた重点事項の取組状況と方向性について提案

- ①全ての学校へ JSL バンドスケール活用の普及をはかる。
- ②指導体制を確立する。
- ③組織体制の充実をはかる。

○早稲田大学大学院からの助言

- ①中学校の支援を強化する。
- ②就学前の子どもの指導を行う。
- ③JSL 児童生徒の保護者と連携していく。

2 本年（平成 21 年）度の経過

第 1 回 5 月 2 6 日（金）

○今年度の方針、方策について

方針

- ①すべての外国籍児童生徒在籍校で、JSL バンドスケールを活用する。
- ②JSL バンドスケールを活用した校内体制づくりを進める。
- ③日本語教育担当者ネットワーク会議の充実をはかる。

第 2 回 8 月 2 0 日（木）

○JSL バンドスケール（6～7月）測定結果と分析について

- ①各校における JSL バンドスケールの活用状況についての報告。
- ②校内推進体制づくりの進捗状況。
- ③日本語教育担当者ネットワーク会議における教材作成の進捗状況。

第 3 回 3 月 2 5 日（木） 予定

- 本年度の成果と課題、H22年度の方向性について

日本語教育担当者ネットワーク会議の開催状況

2008年度

	開催月日	活動内容
第1回	4月24日	<ul style="list-style-type: none"> 指導方法, 授業形態について 情報交換
第2回	6月3日	
第3回	7月4日	
第4回	7月29日	<ul style="list-style-type: none"> 早稲田大学大学院と各校の日本語教育担当者が協働で教材を研究, 作成 日本語教育の授業実践について検討 教材の共有について
第5回	8月8日	
第6回	8月21日	
第7回	9月9日	
第8回	10月21日	
第9回	11月25日	
第10回	1月7日	<ul style="list-style-type: none"> 教材作成
第11回	2月10日	<ul style="list-style-type: none"> 教材整理

2009年度

	開催月日	活動内容	
		小学校	中学校
第1回	5月26日	※小中合同会議 <ul style="list-style-type: none"> 第1回プロジェクト会議より (今年度の方針確認) 2008年度に作成した教材を使つての実践発表 (4本) 	
第2回	6月5日	<ul style="list-style-type: none"> 教材作成の計画, 分担。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換 (国際教室の運営・取り出しの日本語指導・取り出し以外の支援について)
第3回	7月3日	<ul style="list-style-type: none"> 教材の活用のための情報交換 グループ別教材作成 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校用教材作成の方向性について話し合い 情報交換 (各校の外国人生徒の状況・定期テストの扱いなど) 各校で活用している教材の持ち寄り
第4回	7月24日		<ul style="list-style-type: none"> 中学校用教材作成の方向性について話し合い
第5回	7月31日		<ul style="list-style-type: none"> 持ち寄った各校の資料をもとに、初期支援で活用できる教材について検討。 教材作成の分担
第6回	8月24日	※小中合同会議 <ul style="list-style-type: none"> 教科につながる授業案づくり川上先生・石井先生をお迎えして) 	
第7回	9月4日	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に作成した教材の交流 教材の活用のための情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活 (中学校) の日本語教材作成について検討
第8回	10月16日	<ul style="list-style-type: none"> 教材の活用のための情報交換 教材作成 (主に高学年の補助教材について) 	
第9回	11月10日		
第10回	11月27日	※多文化共生担当者研修会と兼ねて開催 <ul style="list-style-type: none"> 実践紹介 (外国人児童生徒緊急サポート協力員による多文化共生の取り組み) 教育長講演 (ブラジル視察) 	
第11回	1月7日	<ul style="list-style-type: none"> 教材作成 (主に高学年の補助教材について) 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活 (中学校) の日本語教材作成について検討
第12回	2月26日	※小中合同会議 <ul style="list-style-type: none"> 年間まとめと次年度へ向けて 	

JSLバンドスケールを活用した年間スケジュール

